

各位

党派を超えて国家的課題を追求する

公益財団法人協和協会

時代を刷新する会

両団体会長代行 岸 信夫

両団体理事長 半田晴久

新エネルギー委員長 中島稔

両団体専務理事 清原淳平

新エネルギー委員会のお知らせ (第312回)

日時 平成29年6月8日(木)午後1時～3時半

場所 衆議院第二議員会館 地下1階 第7会議室

千代田区永田町2-1-2

◆国会議事堂前駅(丸の内線・千代田線)①番出口より4分、永田町駅(有楽町線・半蔵門線)①番出口より下車3分。当日、午後0時45分より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。その時刻前に到着された方は、恐縮ですが、受付脇のロビーにてお待ち下さい。会議開始後にお越しの方は、受付に「第7会議室に行きたい」旨お伝え下されば、お迎えに参ります。

議題 1、最近の再生・新エネルギーについて思う

挨拶 中島稔新エネルギー委員長

2、工場排熱を利用した電力発生技術

解説 鹿園直毅東京大学生産技術研究所教授

3、『新エネルギー関連ニュースNO.165』

解説 中島稔新エネルギー委員長

報告 去る5月9日開催の第311回新エネルギー委員会は、中島稔新エネルギー委員長が議長を務め行われました。

まず、中島委員長より、「最近の再生・新エネルギーについて思う」と題して開会挨拶がありました。先日、志摩半島沖でメタンハイドレートの抽出に成功したとのニュースがあった。水深1000m、海底から350mの地層から掘削した。問題は、エネルギー投資効率(EPR)で、「生産エネルギー/投資エネルギー」の倍率は大きいほどいい。現在石油は8程度、原子力は6程度で、メタンハイドレートがどれくらいになるかに注目している。

次に、清原淳平専務理事より、本日の講師・関根泰早稲田大学理工学

術院教授の経歴紹介がありました。次に、関根教授より、「水素を低温で生成する技術」について解説をいただきました。日本のエネルギー政策の課題は、安定的に確保できるか、高効率化できるか、石油からガソリンを生産するときの無駄を減らせるか、自動車や化学産業のエネルギー喪失を減らせるか、家庭で低温熱の需要を満たせるかなど数多い。資源のほとんどはオーストラリアに依存している中、水素関連でも研究が行われているが、実用化と研究は別物であり、実証を急ぐあまり行き詰まることもある。経産省が出した水素ロードマップにおける燃料電池自動車普及計画が大幅に削減されたのが典型例だ。現在日本が水素製造においてトップを走っているのは、光触媒を用いた水素製造技術である。世界的に普及している水蒸気改質法より、独自の技術による製造法で世界のトップを占めたほうがよい。他に手薄な分野は褐炭からの製造法である。また、貯蔵技術もまだ進んでいない。常温ではガスでありエネルギー密度が低い、燃料電池車では長い距離を走るために、700気圧という海底での圧力に近い圧縮水素を入れている。水素を貯蔵することがいかに難しいかが分かる。

次に、中島稔委員長より『新エネルギー関連ニュースNo.164』の解説がありました。今回は、○燃料電池の劣化が水による酸化が原因であると突き止める。電極材料として用いる白金系ナノ粒子が酸素と結び付きやすいため、白金量を減らした合金であれば酸化が抑えられる。これによって燃料電池車の走行性能を向上させることができるか。○圧縮空気で蓄電するシステム稼働開始。レアアースや有害物質は使用しない。また、天候の影響が強い風力発電を安定的に利用する制御技術も確立したいとのこと。○石炭粒子をガスにした複合発電の実証実験を開始。○カーボンナノチューブ光触媒でCO₂フリー水素の製造に成功。太陽光エネルギーで高効率化。などの解説があり、一同大いに勉強になりました。

★レクチュアにつき、当日会費 会員千円、非会員三千円にご協力を。

次回、6月8日(木)の新エネルギー委員会に

出・欠 (いずれかに○印)

御芳名 _____

貴方様のFAX _____

テロ対策への警備からの要請上、会員に限ります。

参加希望者は、予め履歴書をご提出下さい。

事務局宛FAX 03-3507-8587

協和協会事務局 ☎03-3581-1192 時代を刷新する会事務局 ☎03-3272-4320

HP <http://www.jidaisassin.jp> Eメール kiyohara@jidaisassin.jp